

第23回

俳句甲子園

HAIKU KOU SHIEN

《開催要綱 第3版》

主催 : NPO法人俳句甲子園実行委員会
共催 : 松山市・愛媛県

<事務局> 〒790-0014 愛媛県松山市柳井町2丁目21-3
グリーンフィールドヒラオカ
TEL 089-943-1512
FAX 089-948-4819
E-mail : info@haikukoushien.com

<俳句甲子園 HP> <http://www.haikukoushien.com/>



全国高等学校俳句選手権大会

第23回俳句甲子園 開催要綱

事業名称 第23回俳句甲子園 全国高等学校俳句選手権大会

主催 共催 NPO法人俳句甲子園実行委員会
松山市・愛媛県

後援 (申請中) 文部科学省、(公社)全国高等学校文化連盟、(公社)松山青年会議所、愛媛県教育委員会
松山市教育委員会、(公社)日本伝統俳句協会、現代俳句協会、(公社)俳人協会
HIA国際俳句交流協会、俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会、松山大学
愛媛新聞社、NHK松山拠点放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ
FM愛媛、愛媛CATV、大街道中央商店街振興組合、松山大街道商店街振興組合
(株)まちづくり松山、お城下松山 (順不同・敬称略)

協力 神奈川大学全国高校生俳句大賞

開催趣旨 誰でもふと口ずさむことができ、フランス人に「生きる芸術」と呼ばれた俳句。
P. ピカソが「広々とした自由」と呼んだ俳句。現在全国の俳句愛好者は500万人を
超え、いまや「俳句の時代」といわれるほど、この小さな詩形は、日本人の日々の暮ら
しに溶け込んでいます。とりわけ愛媛県では、近世から階層を問わずあらゆる分野の
人々が俳諧に親しんできました。中世には神仏に捧げる法楽連歌が多く残されており、
明治以降には俳句を近代の詩として再生させた正岡子規をはじめとして、高浜虚子、河
東碧梧桐、中村草田男、石田波郷、芝不器男、富沢赤黄男など、さまざまな個性に彩ら
れた俳人を輩出した伝統的風土があります。

俳句は、現代を生きる人々の心をく五・七・五という十七音に凝縮されたわずかな
言葉の空間に解き放ち、またひとつの作品が読者との間にさまざまな読み方の回路を開
き、いろいろに読むことができるという自在な活力にも満ちています。各地から俳句に
親しむ高校生が一堂に参集し、俳句を楽しみ、交流することは、本来「座」に集う人々
の共同の文芸であった俳句に相応しく、そこから生まれる人間的な交流は、高校生にと
って国語教育の一環としてのみならず、新鮮で貴重な社会的経験となり、豊かな人間性
を育むであろうと考えます。

また、次代を担う若者たちの新鮮な発想と創造性、しなやかで軽やかな感受性は、こ
の小さな詩の未知の魅力を我々の前に開いてくれることでしょう。

以上のように〈俳句甲子園〉は俳句を通じ地域間・世代間の交流と若者の文化活動の
活性化に必ず寄与するものと考えます。(1997年当時作成)

大会スケジュール

6月 25日(木)	全国大会進出 32 チーム 発表 全国大会用兼題 発表 「対戦オーダー用紙」ダウンロード開始 開催要綱【第3版】公開
7月 10日(金)	「対戦オーダー用紙」提出締切 【14時】
8月 23日(日)	全国大会審査結果発表(団体・個人賞)【13時】

歴代優勝・準優勝校（団体の部）

第 1 回	優勝：東温高等学校（愛媛）	準優勝：愛光高等学校（愛媛）
第 2 回	優勝：愛光高等学校（愛媛）	準優勝：松山東高等学校 B（愛媛）
第 3 回	優勝：伯方高等学校（愛媛）	準優勝：東温高等学校（愛媛）
第 4 回	優勝：松山東高等学校（愛媛）	準優勝：開成高等学校（東京）
第 5 回	優勝：吹田東高等学校（大阪）	準優勝：松山東高等学校（愛媛）
第 6 回	優勝：開成高等学校（東京）	準優勝：高田高等学校 B（三重）
第 7 回	優勝：甲南高等学校（兵庫）	準優勝：開成高等学校（東京）
第 8 回	優勝：開成高等学校（東京）	準優勝：下館第一高等学校（茨城）
第 9 回	優勝：熊本信愛女学院高等学校（熊本）	準優勝：松山東高等学校（愛媛）
第 10 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：幸田高等学校翡翠（愛知）
第 11 回	優勝：開成高等学校 B（東京）	準優勝：愛光高等学校（愛媛）
第 12 回	優勝：松山中央高等学校（愛媛）	準優勝：洛南高等学校（京都）
第 13 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：首里高等学校（沖縄）
第 14 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：幸田高等学校（愛知）
第 15 回	優勝：松山東高等学校 A（愛媛）	準優勝：開成高等学校 A（東京）
第 16 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：洛南高等学校 B（京都）
第 17 回	優勝：開成高等学校（東京）	準優勝：洛南高等学校 B（京都）
第 18 回	優勝：名古屋高等学校（愛知）	準優勝：北海道旭川東高等学校（北海道）
第 19 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：東京家政学院高等学校（東京）
第 20 回	優勝：開成高等学校（東京）	準優勝：幸田高等学校（愛知）
第 21 回	優勝：徳山高等学校（山口）	準優勝：開成高等学校（東京）
第 22 回	優勝：弘前高等学校（青森）	準優勝：名古屋高等学校 B（愛知）

歴代最優秀句（個人の部）

第 1 回	秋立ちて加藤登紀子が愛歌う	白石 ちひろ	松山中央高等学校
第 2 回	朝顔の種や地下鉄乗り換えぬ	森川 大和	愛光高等学校
第 3 回	裁判所金魚一匹しかをらず	菅波 祐太	愛光高等学校
第 4 回	カンバスの余白八月十五日	神野 紗希	松山東高等学校
第 5 回	夕立の一粒源氏物語	佐藤 文香	松山東高等学校
第 6 回	小鳥来る三億年の地層かな	山口 優夢	開成高等学校
第 7 回	かなかなや平安京が足の下	高島 春佳	紫野高等学校
第 8 回	土星より薄に届く着信音	堀部 葵	紫野高等学校
第 9 回	宛先は糸のころぐさが知つてをる	本田 秀光	宇和島東高等学校
第 10 回	山頂に流星触れたのだろうか	清家 由香里	幸田高等学校翡翠
第 11 回	それぞれに花火を待つてゐる呼吸	村越 敦	開成高等学校 A
第 12 回	琉球を抱きしめにゆく夏休み	中川 優香	菊池高等学校
第 13 回	カルデラに湖残されし晩夏かな	青木 智	開成高等学校 B
第 14 回	未来もう来ているのかも蝸牛	菅 千華子	厚木東高等学校 B
第 15 回	月眩しプールの底に触れてきて	佐藤 雄志	開成高等学校 A
第 16 回	夕焼や千年後には鳥の国	青本 柚紀	広島高等学校
第 17 回	湧き水は生きてゐる水桃洗ふ	大橋 佳歩	幸田高等学校
第 18 回	号砲や飛び出す一塊の日焼	兵頭 輝	宇和島東高等学校
第 19 回	豚が鳴く卒業の日の砂利踏めば	池内 嵩人	松山中央高等学校
第 20 回	旅いつも雲に抜かれて大花野	岩田 奎	開成高等学校
第 21 回	滴りや方舟に似てあなたの手	桃原 康平	興南高等学校
第 22 回	中腰の世界に玉葱の匂ふ	重田 渉	開成高等学校

全国大会概要

「第23回俳句甲子園」は、高校生5人1組をチームとして、主催者が発表した兼題を盛り込んだ俳句を、各自4句(5名全員)提出いただき、チーム全員の句を総合的に評価した団体戦、また、各個人の句の出来栄を評価した個人戦とします。

■投句の方法

- ・6月25日(木)14時、「俳句甲子園公式ホームページ」上にて、全国大会進出チームの発表と同時に「兼題(4題)」を発表いたしますので、未発表の句を各自4句(5名全員)作句し、「対戦オーダー用紙」に入力後、提出締切日(7/10)までに俳句甲子園事務局メールアドレス宛てに送信してください。
- ・「対戦オーダー用紙」は、俳句甲子園公式ホームページ上からダウンロードできます。
- ・「対戦オーダー用紙」の送信受付は、事務局が受信確認をとれしだい、確認済みのメールを返信いたします。
- ・投句いただくチーム5名の選手については、予選時(投句応募)のメンバーと変更することはできません。ただし、兼題ごとに選手の変更をすることはできません。

■投句審査の選考方法

- ・投句審査の選考委員は、審査員長13名(別紙にて紹介)とします。
- ・各審査員長に評価いただいた結果を集計し、団体賞・個人賞を決定します。ただし、評価点等で優劣つけがたい場合には、審査員長に協議いただき決定するものとします。

【選考方法】

※各審査員長には、学校名ならびに生徒の名前を削除した「オーダー用紙」を配布し、チームとしての評価ポイント(AからC)、特選句(10句)を提出いただきます。

【団体表彰】

評価ポイント	評価の仕方
A	上位第1番目から第4番目のランクに位置付けることができると評価されるチーム。 選出するチーム数は4チーム。
B	評価Aのチームと比べて、その評価は拮抗しているが、惜しくも評価Aに入らなかったチーム。 選出するチーム数は最大で2チーム。
C	その他のチームは、すべて評価Cとする。

【個人表彰】

評価ポイント	評価の仕方
特選句10句 および その上位3句	①全国大会の投句審査に提出されたすべての句(640句)の中から、特選句として10句選定。 ②次に、その特選句10句の中から、審査員長が自らの冠する賞を授けてもよいと評価する句を、評価の高い順に3句選定。

■全国大会参加登録費

- ・全国大会の参加登録費は無料とします。

■審査結果発表【表彰式】 8月23日（日）13：00

- ・審査結果の発表（表彰式）は、松山市コミュニティセンターキャメリアホールのステージより、ライブ配信にて行う予定です。
 - ・表彰式の終了後には、リモートにて俳句甲子園エキシビジョンマッチを企画しておりますので、ぜひご観戦ください。
- 配信方法等につきましては、あらためて俳句甲子園公式ホームページ上にてご案内いたします。
（配信終了時刻は、16：00頃を想定しております。）

※各賞（団体・個人賞）は次のとおりとします。

《 団体表彰 》		《 個人表彰 》	
団体優勝	（1チーム）	最優秀賞【文部科学大臣賞】	（1名）
団体準優勝	（1チーム）	優秀賞	（13名）
団体3位	（2チーム）	入選	（20名）

■著作・肖像権

- ・本大会に提出された作品（俳句）の著作権、参加されたチームの情報ならびに映像等に関する肖像権については、本大会への参加登録をもって実行委員会に帰属を承諾したものとみなします。ただし、作品等を作者個人または在籍する学校等が、本大会の作品である旨を明記した上で転載する場合は、その使用を認めます。
- ・本大会の商標等の無断使用を禁じます。営利目的であって、大会名または大会ロゴ等の使用を希望される場合は、事前に主催者の承諾を必要とします。

お問い合わせ先

- ・インターネット環境が整っていない等の特別な事情や、お急ぎの場合を除いて、電話でのお問い合わせはご遠慮ください。
- ・主催者への質疑、確認事項、連絡事項の伝達については、メールまたはFAXにてお願いします。また、その際に送信者のお名前（匿名不可）、連絡先等が確認できない場合には、お問い合わせに対する回答を致しかねますのであらかじめご了承ください。

【大会事務局】 NPO法人俳句甲子園実行委員会

〒790-0014

愛媛県松山市柳井町2丁目21番地3 グリーンフィールドヒラオカ1F

<TEL> 089-943-1512

<FAX> 089-948-4819

Email info@haikukoushien.com

第23回俳句甲子園 審査員長プロフィール



たかの

高野 ムツオ 先生（小熊座主宰）

昭和22年宮城県生まれ。

十代より作句。阿部みどり女、金子兜太、佐藤鬼房に師事。「小熊座」主宰。

日本現代詩歌文学館館長。

句集『陽炎の家』、『萬の翅』(読売文学賞、蛇笏賞)、『片翅』。

著書『語り継ぐいのちの俳句』、『鑑賞季語の時空』など。



にしむら かずこ

西村 和子 先生（知音代表）

昭和23年神奈川県生まれ。

高校生で作句を始める。昭和41年慶大俳句入会。清崎敏郎に師事。

俳人協会理事、毎日新聞俳壇選者、星野立子賞選考委員。

句集『夏帽子』(俳人協会新人賞)、『心音』(俳人協会賞)、『椅子ひとつ』(小野市詩歌文学賞)。

著書『虚子の京都』(俳人協会評論賞)、『季語で読む源氏物語』など。



なかりはら みちお

中原 道夫 先生（銀化主宰）

昭和26年新潟県生まれ。

多摩美術大学卒。広告代理店勤務中に社内の句会に参加。能村登四郎門。平成10年「銀化」創刊、主宰。

日本文藝家協会会員、俳人協会名誉会員。

句集『蕩児』(俳人協会新人賞)、『顛頂』(俳人協会賞)、『アルデンテ』、『巴芹』、『一夜劇』など。



まさき

正木 ゆう子 先生（紫薇同人）

昭和27年熊本県生まれ。

昭和48年「沖」入会。能村登四郎に師事。平成8年「紫薇」参加。

読売新聞俳壇選者、角川俳句賞選考委員。

句集『水晶体』、『悠』、『静かな水』(芸術選奨文部科学大臣賞)、『夏至』、『羽羽』(蛇笏賞)。

著書『起きて、立って、服を着ること』(俳人協会評論賞)、『現代秀句』など。



ほしの たかし

星野 高士 先生（玉藻主宰）

昭和27年神奈川県生まれ。

祖母、星野立子に師事し十代より作句。「ホトギス」同人。

鎌倉虚子立子記念館館長、日本伝統俳句協会会員、日本文芸家協会会員、国際俳句交流協会理事、

詩歌文学館賞選考委員、星野立子賞選考委員、俳句四季大賞選考委員。

句集『破魔矢』、『谷戸』、『無尽蔵』、『顔』、『残響』。

著書『星野立子』、『俳句真髓』。編著『東京ぶらり吟行日和』など。



おざわ みのる

小澤 實 先生（澤主宰）

昭和31年長野県生まれ。

平成12年「澤」創刊、主宰。

俳人協会常務理事。読売新聞・東京新聞俳壇選者、角川俳句賞選考委員、星野立子賞選考委員。

句集『砧』、『立像』（俳人協会新人賞）、『瞬間』（読売文学賞詩歌俳句賞）。

著書『万太郎の一句』、『俳句のはじまる場所』（俳人協会評論賞）、『日本文学全集 近現代詩歌』、

『名句の所以』、人類学者中沢新一との対談集『俳句の海に潜る』など。



なつい

夏井 いつき 先生（いつき組組長）

昭和32年愛媛県生まれ。

黒田杏子に師事。

第8回俳壇賞受賞。第44回放送文化基金賞受賞。

句集『伊月集 龍』、『伊月集 梟』。

著書『おうちde俳句』、『世界一わかりやすい俳句の授業』、『俳句ことはじめ』、『雪の歳時記』シリーズほか3冊、

『寝る前に読む、一句、二句』、『絶滅寸前季語辞典』、『絶滅危急季語辞典』、『俳句の授業ができる本』など。



きしもと なおき

岸本 尚毅 先生（天為、秀）

昭和36年岡山県生まれ。

東大学生俳句会を経て俳誌「天為」、「秀」同人。

岩手日報・山陽新聞俳壇選者、角川俳句賞選考委員、星野立子賞選考委員。

句集『舜』（俳人協会新人賞）。

著書『高浜虚子俳句の力』（俳人協会評論賞）、『「型」で学ぶはじめての俳句ドリル』（夏井いつき氏と共著）など。



せき えつし

関 悦史 先生（翻車魚同人）

昭和44年茨城県生まれ。

「豈」「クプラス」を経て佐藤文香と「翻車魚」創刊。

芝不器男俳句新人賞城戸朱理奨励賞、俳句界評論賞、田中裕明賞。

句集『六十億本の回転する曲がった棒』、『花咲く機械状独身者たちの活作り』。

評論集『俳句という世界』など。



ときた ともや

鶴田 智哉 先生（オルガン）

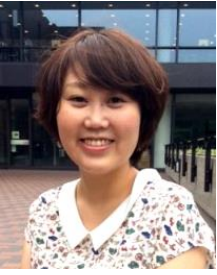
昭和44年千葉県生まれ。

平成8年結社「魚座」（今井杏太郎主宰）にて俳句を始める。

平成19年結社「雲」（鳥居三朗主宰）入会、編集長。平成25年「雲」退会。同人誌『オルガン』創刊参加。

平成13年「俳句研究賞」受賞。

句集『こゑふたつ』（俳人協会新人賞）、『凧と円柱』（田中裕明賞）など。



さかにし あつこ
阪西 敦子 先生 (ホトギス、円虹)

昭和52年神奈川県生まれ。

茨城、東京などを転々とし、祖母の勧めで7歳より作句。『ホトギス』、『円虹』へ投句。『ホトギス』同人。

平成22年日本伝統俳句協会新人賞受賞。

『ホトギスの俳人101』、『俳コレ』、『天の川銀河発電所』入集など。



たかやなぎ かつひろ
高柳 克弘 先生 (鷹編集長)

昭和55年静岡県生まれ。

平成14年「鷹」入会。藤田湘子に師事。「鷹」編集長。

平成29年度「NHK俳句」選者、読売新聞朝刊『KODOMO俳句』選者。

平成16年俳句研究賞。平成20年『凜然たる青春』で俳句協会評論新人賞。

平成21年第一句集『未踏』(田中裕明賞)、平成28年第二句集『寒林』

評論集『どれがほんと？ 万太郎俳句の虚と実』、持田叙子との共編著『美しい日本語 荷風 I～III』など。



こうの さき
神野 紗希 先生 (現代俳句協会青年部長)

昭和58愛媛県松山市生まれ。

高校時代、俳句甲子園をきっかけに俳句を始める。

第1回芝不器男俳句新人賞坪内稔典奨励賞受賞。

句集『星の地図』、『光みれの蜂』。

著書『日めくり子規・漱石 俳句でめぐる365日』、『30日のドリル式 初心者にはやさしい俳句の練習帳』など。